

巻・頭・言

地方代表として

道北技術士委員会の代表と地方委員会の委員長を仰せつかっています。身に余り過ぎている役職・重責ですが、任期までなんとか務めたいと思います。

さて、この原稿は平成30年の夏も終わろうとしている8月終わりに書いています。この夏は道内も含めて全国各地で甚大な豪雨洪水被害が発生しました。亡くなられた方々にお悔やみ申し上げますとともに、被害を受けられた方々に、心からお悔やみ申し上げます。

そして、道内では30度超え、全国的には35度を超える猛暑が続きました。こちらも熱中症が大きな社会問題となるほど多くの被害がありました。私は埼玉県で生まれて、中学高校は富山県で育ちましたが、昭和の時代なので当然学校にエアコンは無く、またそれが当然と思っていました。熱中症という言葉も普及していませんでしたし、運動中に水を飲むこともできませんでした。最近はどうも昔の常識が通用しないことが認識されてきました。政府は来年度の夏までに全国の(北海道内も含めて!)公立学校の全教室にエアコンを設置する準備があるとのこと。私事ではありますが、今年から子供の通う小学校のPTA会長を務めていることもあって、大変ありがたいことです。日本の小中学校には、どんな僻地の小さな小中学校でもグラウンドやプールが整備されており、校舎の耐震化工事も9割がた進んでいて施設面では平等な仕組みが出来上がっており、これは素晴らしいと思います。

ところが、地方在住代表として申し上げたいのですが公教育施設以外の面では、一般的に都市と地方の平等という概念は薄いと思います。全体的な経済格差や個人の経済格差については言うまでもないで

高桑 史郎(たかくわ しろう)

技術士(建設/総合技術監理部門)

北海道本部 副本部長

道北技術士委員会代表

地方委員会代表

(株)フジ土木設計 代表取締役



す。細かいことを言えば、JR北海道の安全管理に不備があったのはいけないことですが、国鉄から民営分社化した時点で長大かつ不採算路線を多く抱える一企業として、新幹線どころかリニア開発まで行う本州のJRと分社するということが自体が平等ではないです。公教育の地域格差を感じることもあります。選挙の一票の格差でも、個人の平等にこだわるあまり、地域の平等について語られることは少ないです。

こんな不平等が長く続けば、格差は加速度的に開いていくわけで、地方を捨てて都市に住む人が増えるのは必然で、とりわけ自由度の高い若者は都会に出ていづれ家庭を持つことになり、地方にはますます子供がいなくなってしまいます。PTA活動は少子化に加えて親にも余裕がなく、年々大変になっているんですよ。。

そんな妬みのようなことばかり言っている私ですが、新卒から10数年はずっと東京都内のゼネコンで現場施工管理をしていました。猛暑かつ炎天下でヘルメットをかぶって新宿の路上で地下鉄工事に従事していた頃は、若かったこともありますが、よくぞ熱中症にならずに無事だったと思い出します。そして、その頃は地方と都市の格差だの、不平等だの考えたこともなく、地方の問題に触れることがあっても、『みんな都会に住めばいいじゃん。』としか思っていないませんでした。いえ、私だけでなく周囲もそんなもんだったというか、そもそも地方の事なんて興味がない。そんな当時の自分に対して反省するとともに、声を大にして言いたいことを二つ。

旭川市民として、新幹線を旭川まで延伸しよう!

北海道民として、函館青森間に橋をつなごう!

賛同される方が少しでも増えますように。。